毎日歌壇

水原紫苑 選

祈るとは凶器を手にしないこと　植物園に雪がちらつく　さいたま市　雨谷　詩穂

〈評〉祈りつつ凶器を手にして来た歴史。植物も雪も美しいが、いつか凶器ともなり得るだろうか。

一羽ならいさう、うさぎが　おぼろすぎてほとんどもやのやうな月には　横浜市　永永　キヌ

〈評〉本当の月、本当のウサギが、まだ人類には見えていないのかもしれない。

文庫本から顔を上げた一瞬に電車は川を横切るところ　東京　小亀　令子

姉の王国はわたしのなかにあり姉をとりまく幽霊が棲む　花巻市　永汐　れい

雨降れば朝の匂いは湿りゆき白きハッカの静けさにいる　堺市　初夏みどり

夕焼けをいくつも越えたまなざしで西の羊は珈琲を出す　浜松市　尾内甲太郎

わたくしはこういうものと渡されて一生交換出来ないカラダ　東京　富見井高志

納豆のゆたかなる糸　言わなくて良いことばかり湧き出る春だ　千葉市　芍　薬

蜃気楼からの手紙は透明で読みすすむほど立ち込める霧　東京　石川　真琴

窓越しのギリシャの白い街並みに思い出すのはあなたの歯列　福岡市　鷹橋　ねい

伊藤一彦 選

トラウマのあたりの棚があいているかなしい人が二人いる街　春日井市　月夜の雨

〈評〉にぎわう書店の中でトラウマ関係の棚だけがすいているが、そこにいる2人に目をとめた作。心の回復早かれと祈りつつ。

移り行く林の中の囀りに朝の光の色変わりけり　北名古屋市　月城　龍二

〈評〉まだ暗い暁から時間の推移と共に鳴く鳥の種類も光線も変わる。巧緻な自然詠。

まろやかな杏子の花芽くれなゐの温しと唄ふやうに咲き初む　横浜市　栗山マサ子

桜咲く季節も自死を希うとは　救い出すべし小中高生　東京　東　賢三郎

老年の永井陽子を想うとき桜ひとひら瞳にながる　春日部市　宮代　康志

ちゃんと落ちれば流星になれたのに私はいつまでもスペースデブリ　横浜市　砂月　七

外に出ることを拒んでかなしみは喉のあたりをしめつけてくる　東京　石川　真琴

スーツ着て戦車だ武器だ話してるその人行かぬ戦争続く　小田原市　林　梢

鏡にもいつかAI組み込まれ会話しながらヒゲを剃る日が　白井市　毘舎利道弘

金を稼ぐとは我慢することと声に出し心の中でパンチ百発　大阪市　タカエレイコ

米川千嘉子 選

「お昼わたしいつもこれ」と焼き芋を　パワーカップルビジネス街で　京都市　日下部ほのの

〈評〉共に高収入の夫婦をパワーカップルともいう。夫はどんな顔をしただろう。焼き芋は最強のファストフードかも。

この人は信じて良いの赤ちゃんはあやされるたび母ふり仰ぐ　京都市　根来美知代

〈評〉見知らぬ人のほほ笑みや言葉を受け取っていいの？と母親に尋ねているよう。

芽が出れば芽が出たと雨が上がったら上がったと君に伝えるこの世　山形　佐藤美和緒

わたくしと年の変わらぬキャサリン妃のがん公表に腹部が痛む　札幌市　住吉和歌子

真っ白な犬が汚れた毬みたいはずんで行くよ春はうれしい　東京　河野多香子

久々に会ひたることの喜びにおもらしまでして近づき来る犬　吹田市　鈴木　基充

四十世帯うち自治会員は九世帯老人われがゴミの当番　神奈川　斎藤　国郎

介護士が介護ロボットの点検と修理に追われている十年後　広島市　堀　眞希

〈はじめて〉に戸惑うだけの人生を救ってくれた〈馴れ〉の二文字　浜松市　久野　茂樹

ディズニーに行く子を乗せる京葉線　春休みには湾がきらめく　千葉市　佐藤　綾子

加藤治郎 選

反芻をしている牛と暮らすこと描写の中を行ったり来たり　東京　新井　将

〈評〉小説か何かの描写ということだろう。牛と暮らす世界に迷い込んだ様子が下句に表れている。心が自由に遊んでいる。

袋ください言えずにコンビニを出たら夕陽と向かい合ってた　尼崎市　入間しゅか

〈評〉もやもやした気持ちになったのだろう。そんな自分を夕日が照らしてくれた。

駅ビルでたまごロールを買う帰りあなたといつかすれ違う駅　千葉市　佐藤　綾子

髪を切る時と日取りが悪ければ黒いわたしが鏡に映る　京都市　小川　ゆか

鋏ならずっと握っていた　やめて　抱きしめられたらわたし狂うわ　所沢市　神田　望

せいせいとしたせいしゅんを送ります雪に触った手を乾かして　平塚市　芝澤　樹

信号が黄色くなって沢蟹を触れなかったこと思い出す　奈良市　古井さらさ

飯碗と汁椀の位置入れ替える人間だけの世界は不便　名古屋市　外山　雪

いつまでも失くしたネジを探してる心療内科は今日も静かだ　横浜市　砂月　七

ヒマという川が二つにわかれたら淋しい川とあくびでる川　大阪市　吉田　昌之

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100－8051（住所不要）毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生（希望選者名）係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム（https://mainichi.jp/kadan-haidan/）でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や、同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁です。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。

入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開し、本社が作成または許諾した出版物やメディアに掲載することがあります。